

小・中学校9年間の学びの連続性を踏まえた学力向上のために

小4ふりかえり学習 実践事例集 －算数・数学－



平成 28 年 3 月

京都府丹後教育局

「小4ふりかえり学習」実践事例集について

児童生徒に「質の高い学力」を身に付けさせることは、すべての学校・教師の願いであると同時に責務です。そのため、丹後教育局管内の学校では、授業改善はもとより、授業を補完するためのドリル学習や家庭学習、補習・補充等、更には校内研修等による指導力向上など、様々な取組が進められてきたところです。加えて、児童生徒に「質の高い学力」を身に付けさせるためには、発達段階に応じた指導を工夫することが欠かせません。保幼小連携、小中連携を充実させ、校種間の接続を工夫するなど、義務教育9年間を見通して指導の系統性・一貫性・連続性を確保していくことも重要な課題となってきました。

児童生徒の学習を俯瞰してみると、幼児期から小学校、中学校へと発達の段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用、習得と活用・探究など、認識や実践できるものが変化していきます。とりわけ小学校の中学年から高学年にかけては、学習が抽象的・論理的なものへと変わる節目に当たり、小学校6年間の中でも重要な時期であると考えられます。

そのため、この節目に当たる時期を前に、それまでの基礎的・基本的な学習内容をしっかりと定着させておくことは、中学校修了時で求められる学力を身に付けるための学習の基盤として極めて重要です。「小4ふりかえり学習」は、このような考え方により、小学校4年の1年間に注目しました。

「小4ふりかえり学習」では、小学校4年の1年間を、それまでの基礎的・基本的な知識や技能、重要な概念を定着させる「体系的な復習とまとめの期間」として位置付けています。その上で、学校体制による指導を実施しようとするものです。

丹後教育局では、このような「小4ふりかえり学習」を、授業を補完する効果的な学力向上システムの一つとして小学校の教育課程に導入していくことを、平成26年度から提言してきました。また、平成27年度からは、実践開発協力校を指定し、3校の小学校で算数科のふりかえり学習の開発に取り組んでいただきました。

本事例集は、その理論を整理するとともに、実践開発協力校の実践に丹後教育局で検討した内容を加えて編集したものです。

丹後教育局管内の小学校は、児童数、教職員数、教職員体制、児童の実態等、様々です。その様々な条件や実情に応じて、無理なく、効果的に「小4ふりかえり学習」に取り組んでいただきたいと考えています。その取組に本事例集を活用いただき、各学校の児童生徒の更なる学力の充実・向上につなげていただけることを願ってやみません。

— 目 次 —

理論編

実践事例集の構成と活用 . . . 1

「小4ふりかえり学習」とは . . . 2

1 「小4ふりかえり学習」の意義 ～なぜ小学校4年生なのか～

2 「小4ふりかえり学習」の内容と進め方

算数・数学の系統 . . . 7

1 「小4ふりかえり学習」で重視したい算数・数学の系統

2 小学校5年までに体系的に復習したい技能や概念等

3 系統表 【関数につながる指導や概念等の系統】

【空間図形につながる指導や概念等の系統】

実践編

1 本冊子で取り上げた実践事例 . . . 11

2 関数の理解につながる「かけ算」の学習 . . . 13

3 空間図形の理解につながる図形の基礎 . . . 18

資料編

1 定着引継シート . . . 23

2 つまづき把握シート . . . 24

3 テープ図と線分図 . . . 25

4 座標 . . . 29

5 ふりかえりプリント . . . 32

平成 27 年度
「小 4 ふりかえり学習」実践開発協力校

宮津市立宮津小学校

京丹後市立かぶと山小学校

与謝野町立岩滝小学校



「小4ふりかえり学習実践事例集」は、京都府丹後教育局が実践開発協力校の協力を得て作成・編集したものです。本書に関わる著作権は京都府丹後教育局にあります。

平成 28 年 3 月発行

京都府丹後教育局

〒626-0044 京都府宮津市字吉原 2586-2

電話 0772-22-2175